

千曲市長 小 川 修 一 殿

千曲市における公共交通施策についての提言

千曲市議会 議長 和田 英幸

高齢化社会が進み、運転免許の返納などにより、移動が困難な高齢者は年々増加が見込まれ、高齢者の移動手段は、地域の公共交通や福祉施策が頼りであります。また、高齢者のみならず、障害者や学生などの交通弱者にとっても公共交通は重要な移動手段であり、その在り方は社会情勢の変化に伴い、時代のニーズに合った形に変革が求められています。

昨年9月以降、福祉環境常任委員会では公共交通について継続して閉会中に調査を行い、当市の公共交通の現状把握や他市町の先進事例の調査研究をしてきました。

このほど、今後の当市の公共交通施策に対しての提言がまとめられたので、提出いたします。

記

1. 需要に即した公共交通体系への変革

・朝夕の通勤・通学時間帯に利用する社会人や学生、通所等に利用をする障害者、通院・買い物に利用する高齢者、休祝日に利用が多い観光客といった利用者の傾向を踏まえた上で、より利用しやすい公共交通体系へ変革していくこと

2. 地域性を考慮し、公平性のある運行形態の確立

・現在市内で運行されているデマンド型乗合タクシーは、更埴東部地区のみで利用が可能であり、利用できない地域との公平性を欠く状況が続いている

デマンド運行の全市拡大や定時定路線との併用等について検証を行い、最適な運行方法に見直しを行うとともに、バス運行路線やバス車両のサイズの見直しなどを総合的に進めていくこと

3. バス事業者、タクシー事業者との合意形成

・公共交通体系の見直しにあたっては、利便性の向上と効率運行のバランスに配慮し、これまで地域住民の移動手段の維持に貢献をされてきたバス・タクシー事業者の撤退や廃業を招かないよう、関係団体と十分な調整を行い、合意を得ながら進めるとともに、可能な補助金等の財源確保にも努めること

4. 積極的な先進技術の活用

・近年、A I利用のデマンド交通や自動運転の活用のほか、公共交通以外の移動サービスとの連携を行うM a a Sなど、新たな技術を活用した取り組みや実証実験が進んでおり、公共交通体系の見直しにおいてはこうした先進技術の活用について積極的に研究・検討すること。

5. 交通弱者へのきめ細かな配慮

・新たな交通施策が導入された場合には丁寧な説明や周知、支援が必要であり、特に公共交通を利用したい高齢者に対しては、福祉部門と連携し、きめ細やかな配慮をしていくこと。

以上

別紙 詳細説明

- 1 朝夕は通学等に利用する方の定時定路線運行、昼間は高齢者向けのデマンド運行、市内経済活性化につながる観光拠点を結ぶバス運行など利用傾向に合わせた運行形態への変更を研究し、全市民を対象としたアンケート調査により、地域ごとに将来を含めた市民ニーズを把握した上で、より多くの人が利用しやすい形に変革していくこと
- 2 デマンド交通の利用ができず、タクシーを利用しなければならない地域とデマンドが利用できる一部地域との不公平さは問題である
これまでの利用実態などを分析し、バス運行を継続する地域とデマンドエリアの拡大を総合的に検討し、市民が平等に交通サービスの恩恵を受けられる交通体系への変革を実施していくこと
また、運行する地域に最適なバス車両へのサイズ変更や低燃費車の導入により、不必要な燃料消費や排ガス排出を低減させていくこと
- 3 デマンドエリアの全市拡大に向けては、各運行事業者の経営や運行経費の増加などの影響もあるため、関係団体の合意の下で効率運行と利便性向上のバランスをとり、見直しをしていくこと
- 4 デマンドの運行ルートをA Iが自動で決定する運行管理システムや自動運転の実証実験、他分野との連携を行うM a a S活用の取り組みなど、先進技術の活用・試行事例を参考に、有効な手段を積極的に取り入れていくよう市内の他部門とも連携を取る中で研究・検討を進めていくこと
- 5 デマンドの仕組みや利用の仕方がわからずに利用をためらう高齢者もいるため、民生児童委員などのご協力をいただき、交通システムの丁寧な説明や周知、利用のための手助けをしていくこと
また、交通弱者に対する福祉パス券（公共交通利用券）の配布など継続的な支援をしていくこと